

特集

模擬患者を 取り入れた 教育を見直す **Part 1**

模擬患者は何を学んでいるのか



MAJOR ARTICLES

看護教育において、患者さんに実際に接する機会は、通常では実習しかありません。しかし、実習で出会う患者さんの数は限られますし、実際に治療中であることから考えると、少ない機会だからと言って、教育効果ばかりを優先するわけにはいきません。そこで、教育の視点から患者さんへの対応をシミュレートできる存在としての模擬患者が注目を集めています。模擬患者を取り入れることによって、講義やペーパーペイシェントはもちろん、実習でも経験できない多くの学びを、学生は得ることができます。

しかし、ここで注意しなければならないことがあります。それは、「模擬患者」自体の教育には、公式に決められたカリキュラムが存在しないということです。それはつまり、あなたの前にいる模擬患者が、どのくらいの知識や経験をもっているかが、はっきりとはわからないということなのです。当然、学生が学ぶ内容にも影響があるでしょう。

今回の特集は、模擬患者を取り入れた教育を始める前に、まずは模擬患者がどのように教育されているのかについて、さまざまなケースを提示します。そして、次号では、その教育内容を踏まえたうえでの、看護教育への導入例をご紹介します。

教育全般にいえることですが、模擬患者を取り入れる際にも、準備を怠ってはならないのです。